

奇妙な花粉症 (2)

急に涼しくなってきました。季節が変わると周りの環境が一変します。8月から発症が見られたスギ花粉症(スギ花粉が出ているわけではありません。)は、8月下旬からヒノキ花粉症に、そして9月に入ってマツ花粉症に、さらにブナ花粉症に、9月末にはケヤキ花粉症も出てきました。それぞれスギと同じく、花粉が出ている訳ではないのです。一体何なのでしょう。それぞれの樹が、何らかの変化を起こしている事は否定できません。例えば、後の季節での芽吹きへの準備であつたりします。そして私たち人間が、その何らかの変化を、身体に感じている事も事実なのです。物質的なものなのか、非物質的なものなのか、も、はっきりしません。発症している方の中で、マスクで防げているという方は、余りいないようです。非物質的な物に反応しているのだとすれば、私たちの身体は以前よりは、精妙になってきているのかもしれない。そして環境に対して、うまく対応できるようになってきているのではないのでしょうか。あたかもワクチンのように、前もって反応するお陰で、実際の花粉が出るころには、その花粉による花粉症は、ほとんど発症していないのです。

現に、この8~10月に、以前には反応していたブタクサ、セイタカアワダチソウ、キク、キンモクセイ、ヨモギ、カナムグラ、コメなどに対する花粉症は、ほとんどいませんでした。

その症状にも特徴があります。最初に強い反応がどんときます。数日で、次第に症状が軽くなり、2~3週間で消えていきます。概ね以前の花粉症よりは、軽くなっています。しかし、感染症が合併していたり、黄砂が飛来していてそれに反応していたり、放射性セシウムや放射性ストロンチウムの内部被曝などが合併していると、軽い症状で済むことは少ないと思います。関節炎、気管支炎、肺炎、頭痛、腹痛、筋肉痛、鼻炎、皮膚炎、などの症状の強い場合は、早期診断により、関連した多くの原因を見つけ出しそれぞれに対応することにより、軽く乗り越える事ができます。

放射性セシウムについては、ようやく測定が可能になり、健らいとにお申込みいただけるようになりました。先日、青森県のリンゴを調べましたら、5ベクレル/kg程出ましたので事故直後は、どれだけだったのだろうと思いました。ちなみに静岡県のお茶は事故直後に321ベクレル/kgで今年は、同じ農園で、5ベクレル/kg(島津テクノリサーチ)でした。

現代では様々なものが、人体への被害をもたらします。科学的な解明がなされていなくても、患者様との共同研究により、臨床的事実として明確になったものは、予防原則として取り組んで参りたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

鈴木富美